

【統合前簡易水道】

経営比較分析表（平成28年度決算）

新潟県 新発田市

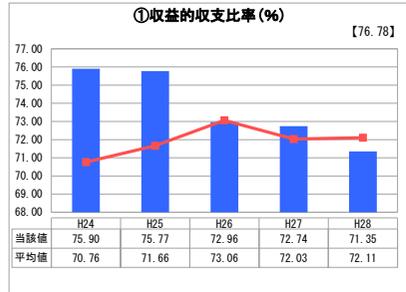
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	1.88	2,813	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
99,700	533.10	187.02
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,779	2.01	885.07

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



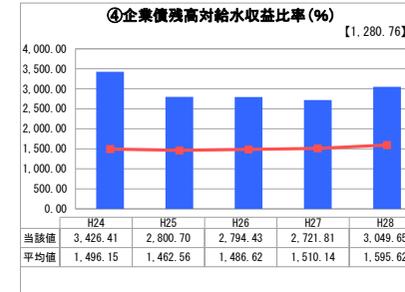
「単年度の収支」



「累積欠損」



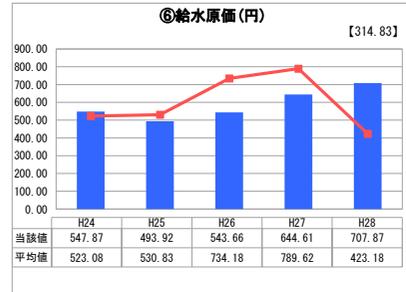
「支払能力」



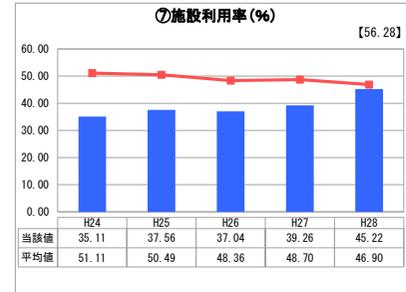
「債務残高」



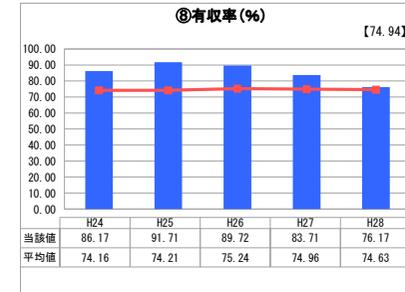
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率が年々悪化傾向を示しているのは、人口減少などの影響による給水収益の減少が大きな要因です。また、「企業債残高対給水収益比率」の悪化については、簡易水道統合整備事業のために企業債の借入を行っているため、今後も更新工事があることから、悪化傾向を示していくことが予想されます。

「料金回収率」・「給水原価」・「施設利用率」・「有収率」のいずれも、悪化傾向や類似団体平均値よりも低い値を示しています。平成30、31年度には、老朽化した配水管入替工事を計画していることから数値の改善が図られるものと考えていますし、また、現在、井戸水を使用している家庭に対し、水道水への切替を促すことで、給水収益の増しに取り組んでいきます。

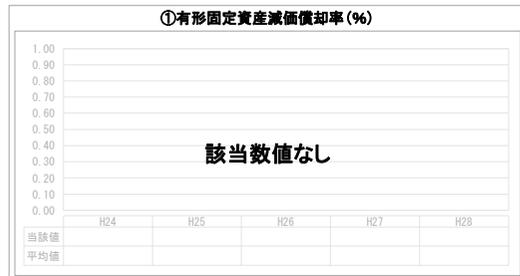
給水収益は、今後も減少傾向を予想しており、かつ、簡易水道地域全体で多くの施設を維持管理していく中で収益的収支比率等の改善には、一層の業務の効率化や合理化が求められています。

2. 老朽化の状況について

創設から既に48年が経過し老朽化が進んでいます。この間、設備等の定期的な点検や修繕等で延命化を図ってきました。

しかし、配水管については、漏水のため有収率が低い施設もあることから、更新工事を平成30年度に中々山地区、平成31年度に滝谷新田地区で順次行う予定です。

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

簡易水道地域は、中山間地に位置しており人口減少とともに、給水人口が減少し給水収益も減少しています。一方で、多くの施設等の維持管理が必要であり、老朽化により維持費も増加しています。

これまでは不採算事業であっても、赤字分を一般会計からの繰入金で補填し事業を維持してきましたが、平成29年度からは、簡易水道事業を廃止し、上水道事業に経営統合することから、これまでのような赤字補填はなくなり、経営環境はますます厳しくなることが予想されます。

これらのことから、より一層の効率的な経営を期待していきます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。